

新潟市立小針小学校



とぼりの子



平成30年6月4日発行

No.2

児童数 711名

## タンポポのように

校長 長谷川 豊

東日本大震災直後に会った言葉です。

ボランティアをしなくちゃとか、社会に貢献しなくちゃとか、そんなことを考える前に、まずはあなたが笑顔で過ごすこと。そして、あなたの目の前の人を笑顔にすること。それが一番のボランティアであり、社会貢献です。

子どもたちを守らなければ。そう思った私がまず実践しようと思ったのが笑顔で過ごすことでした。ところが、手を差し伸べてもらったのは逆に私の方でした。子どもたちの笑顔、保護者の皆さんや地域の見守りボランティアの方々の献身的なお力添えが私を笑顔にしてくれました。ありがとうございました。

人生には三つのさかがある、とよく言われます。上り坂、下り坂、そして、まさか。上り坂、下り坂のときは、心の準備ができますが、突然やってくるまさかは準備できません。最大、最難のときと言えます。

私はずっと、「念ずれば花ひらく」で知られている坂村真民さかむらしんみんさんの「タンポポ魂」という詩を噛みしめていました。

### タンポポ魂

踏みにじられても 食いちぎられても  
死にもしない 枯れもしない その根強さ  
そしてつねに 太陽に向かって咲く その明るさ  
わたしはそれを わたしの魂とする

自宅のお堂を「たんぽぽ堂」と名付けるほど、タンポポのたたず佇まいに共感し、自分の人生と重ね合わせていた真民さん。真民さんは、厳しい岐路に立ったとき、逃げるのでもなく、諦めるのでもなく、避けるのでもなく、前を向いてすくっと立ち上がる姿をタンポポの花に見ています。

踏まれても平気で花を咲かせるタンポポ。どんな所へも飛んで行って新しい土地でしっかりと根付くタンポポ。土なんかほとんどないアスファルトや石垣から咲くタンポポ。その花言葉のように幸せを撒き散らすタンポポ。

なぜ、これほどまで屈強なのでしょう。タンポポの根は深く、なかには1mに及ぶのがあります。タンポポは根をぐんぐん大地に下ろしてゆくのです。

私たちがタンポポと同じです。見えているところより、見えていないところが長く大きいのです。見えていないところこそ大切にしなければならないのです。タンポポのようになれば、タンポポがそう教えてくれているような気がしてなりません。